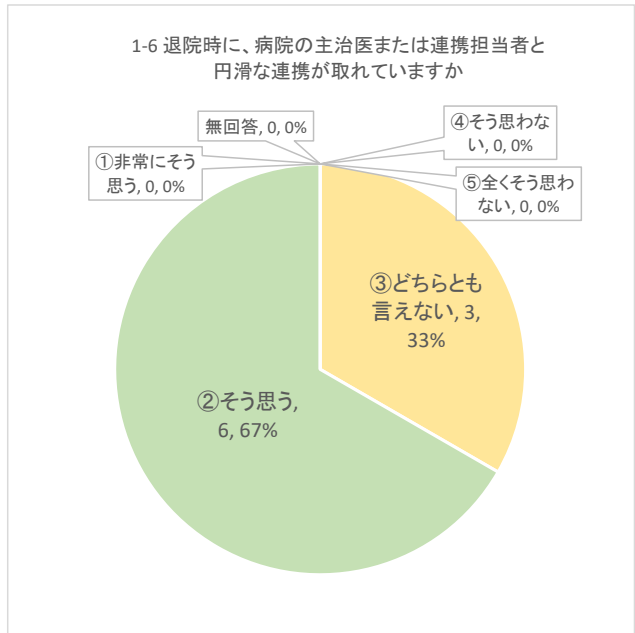
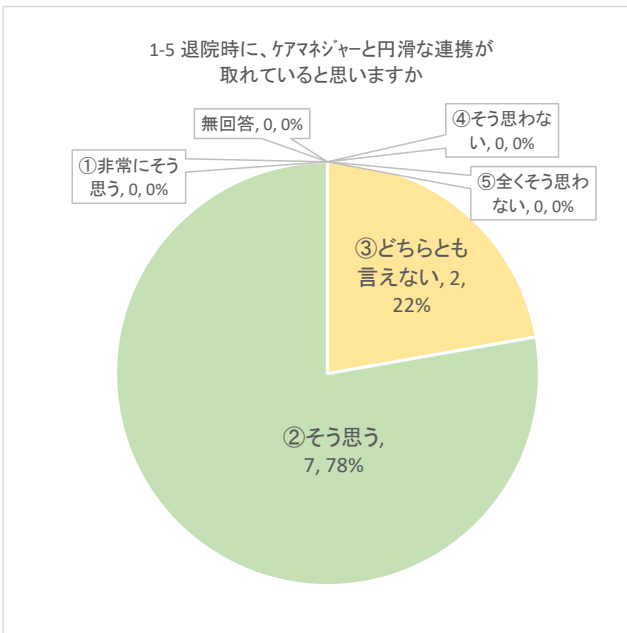
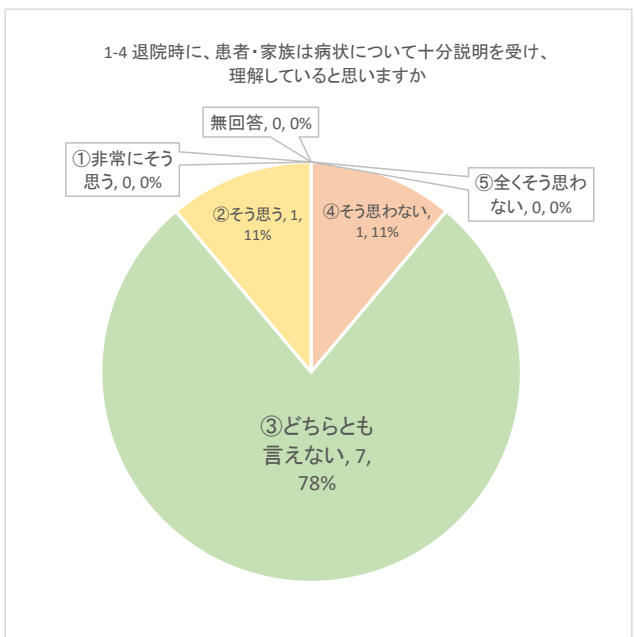
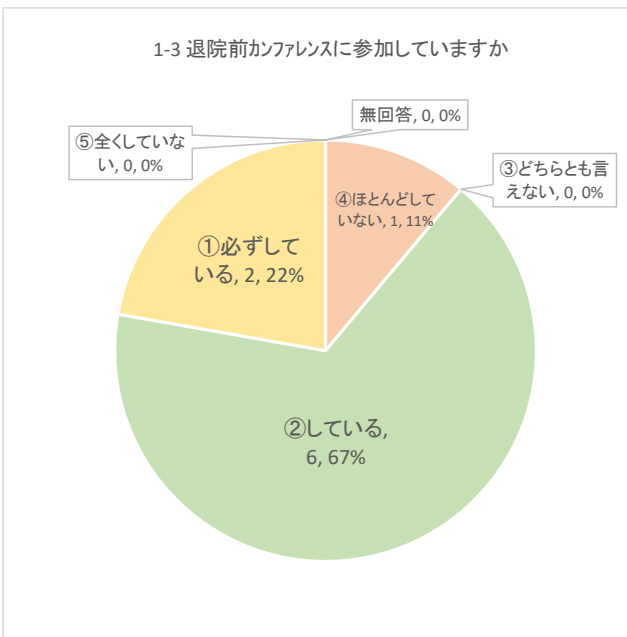
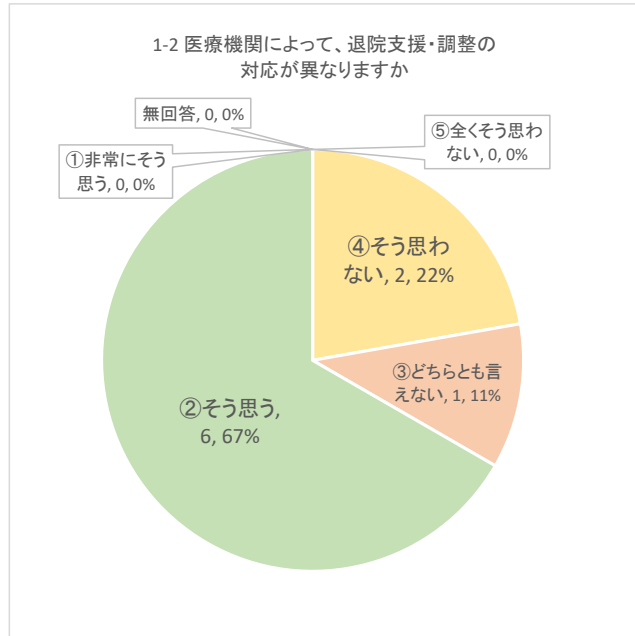
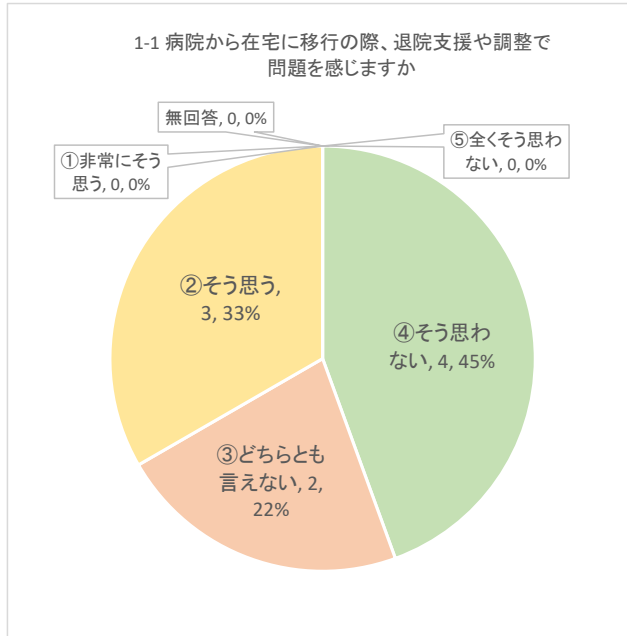


4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

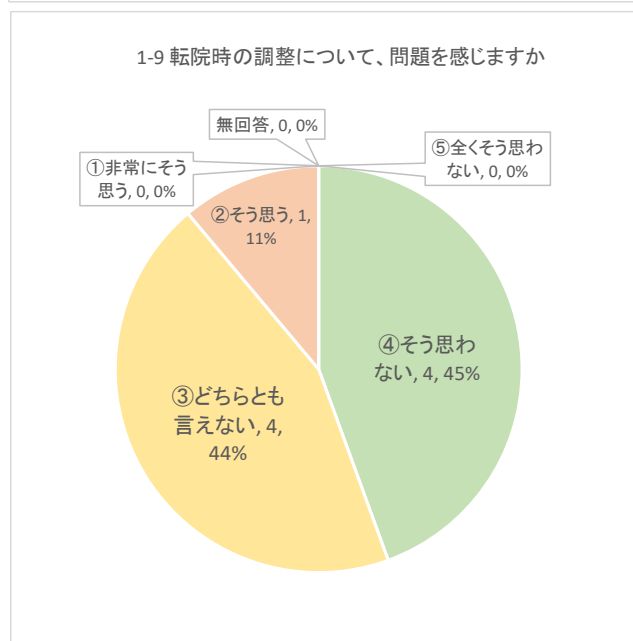
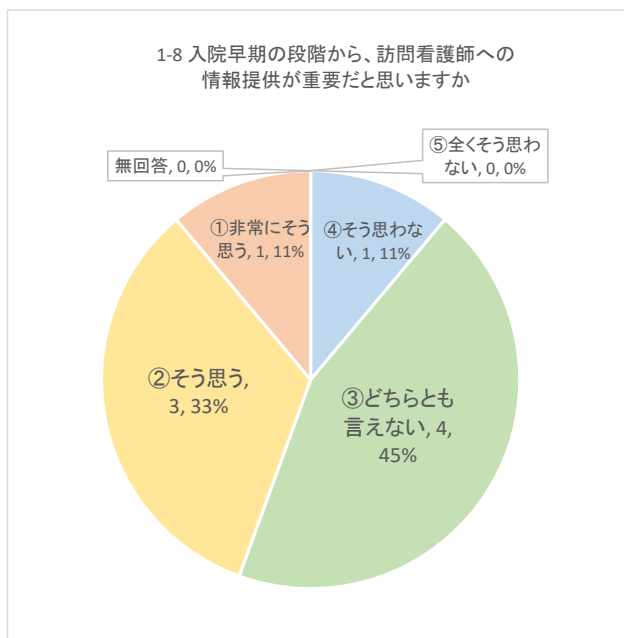
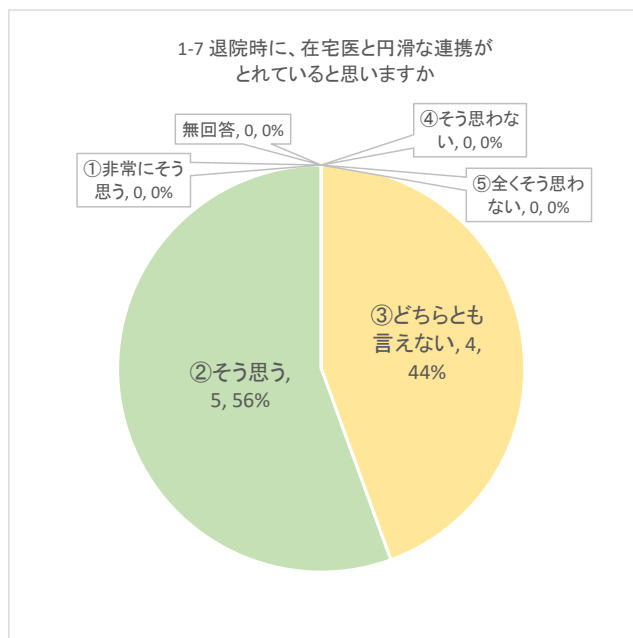
NO.1
アンケート回収率75%
R2年度2月調査

1.入退院支援について



4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

N0.2
アンケート回収率75%
R2年度2月調査



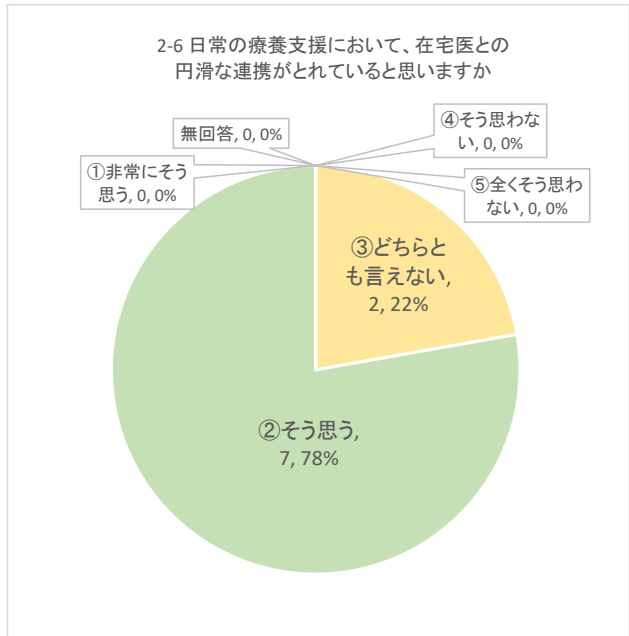
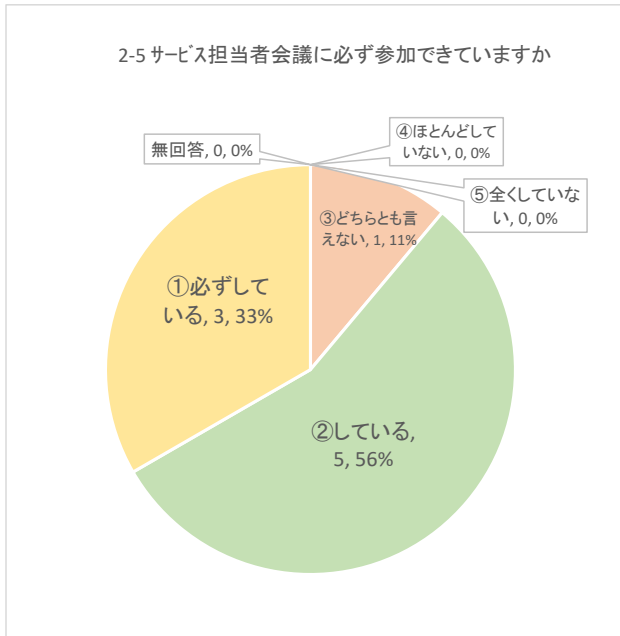
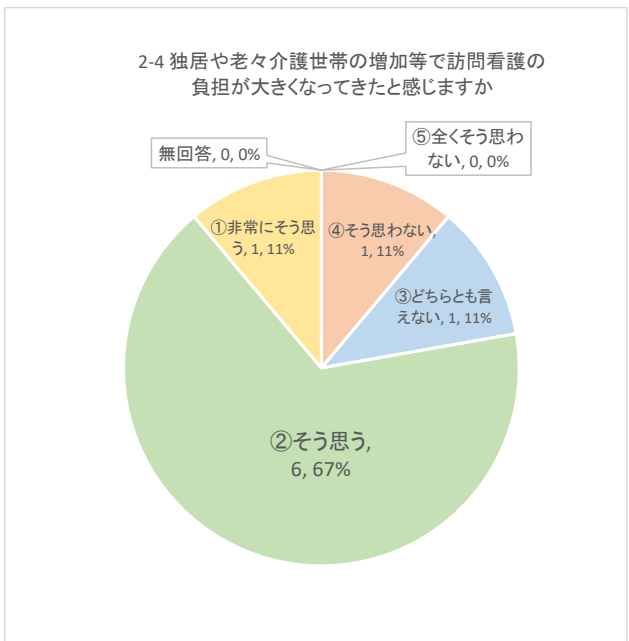
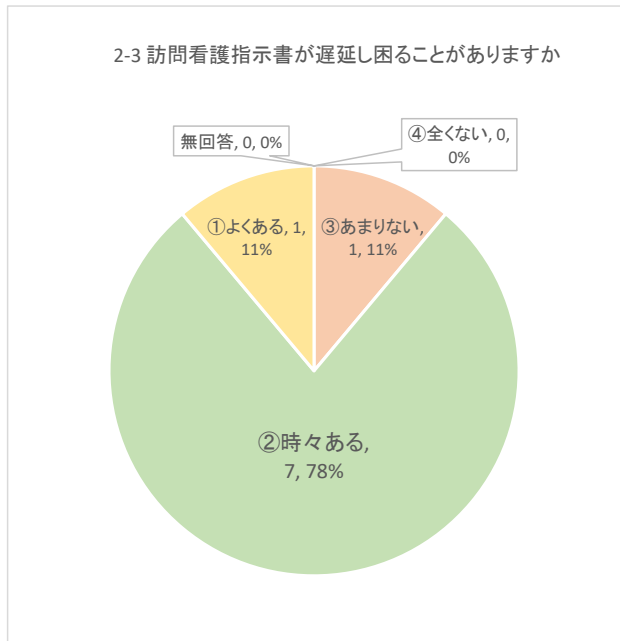
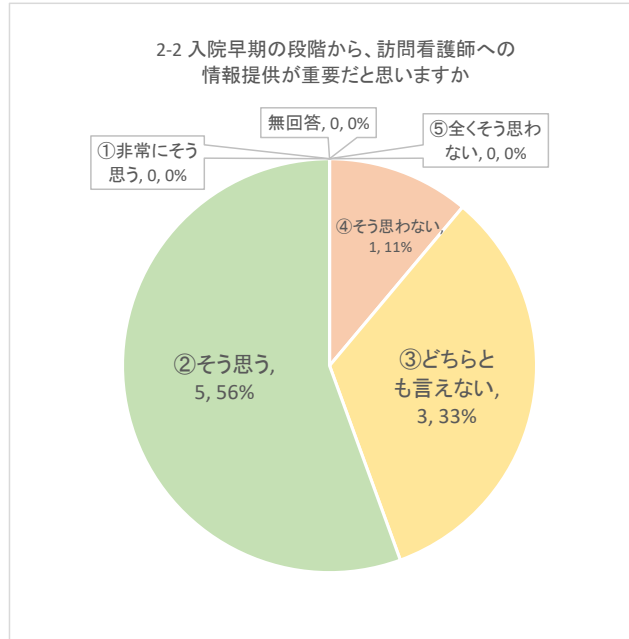
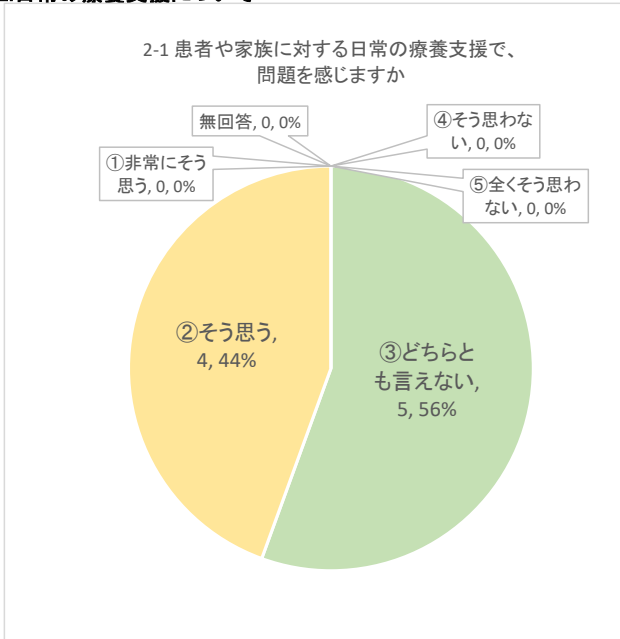
1-10 入退院支援についての課題と考えられる解決策について

- ・入院先が決まった時点で、出来る限り早く情報交換(電話、メール、FAX、訪問その他)をする必要性があると考えます。
- ・訪問看護の仕組みを知らないDrも多いので、簡単に見れて理解できるフローチャートの様なものがあった方が良いかなと思います。
- ・情報が少ない。本人、家族の今後の意向を聞いていない事がある。退院前カンファレンスに病院の主治医が忙しくて参加できない事も多い。多職種が、皆集まるとスムーズにサービスが利用できる。
- ・ぎりぎりの連絡ではなく、早目に退院の連絡をもらえると助かります。特に週末(金曜日)退院となると、土日の調整が難しいことがあります。
- ・コロナ禍で退院時の指導が難しいこともあると思いますが、入院中より退院後に必要となる介護方法、指導がうまくいっていないことがあります。

4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

N0.3
アンケート回収率75%
R2年度2月調査

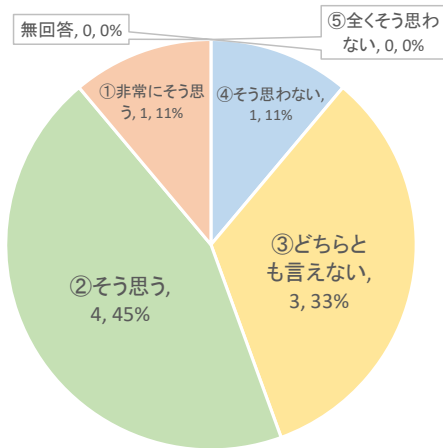
2. 日常の療養支援について



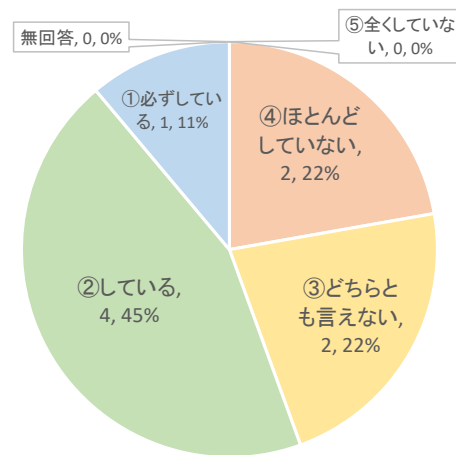
4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

N0.4
アンケート回収率75%
R2年度2月調査

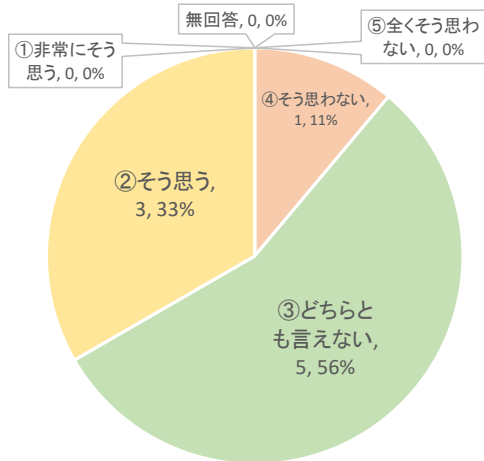
2-7 日常の療養支援において、訪問リハビリと円滑な連携がよれていると思いますか



2-8 多職種にかかわる情報を、共有するシステムや共通の書式を使用して運用していますか



2-9 多職種との「顔が見える連携」がとれていると感じますか



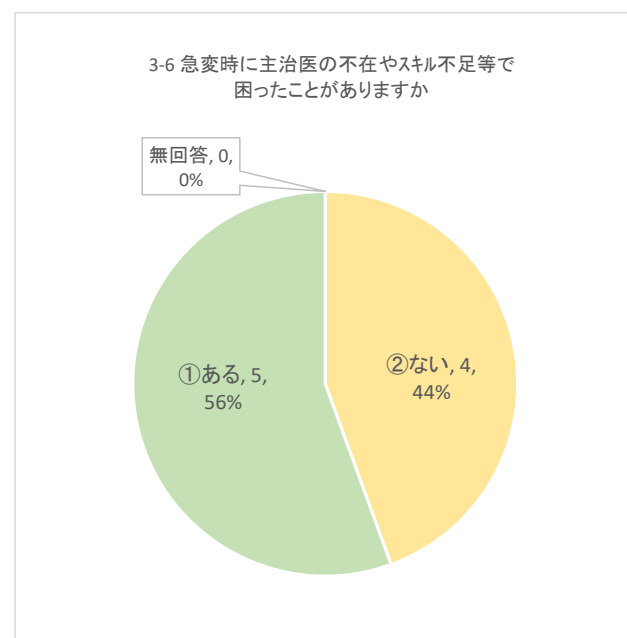
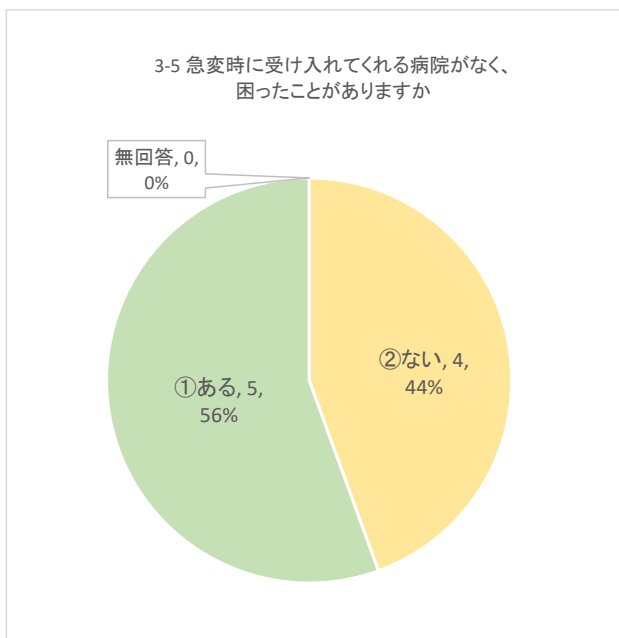
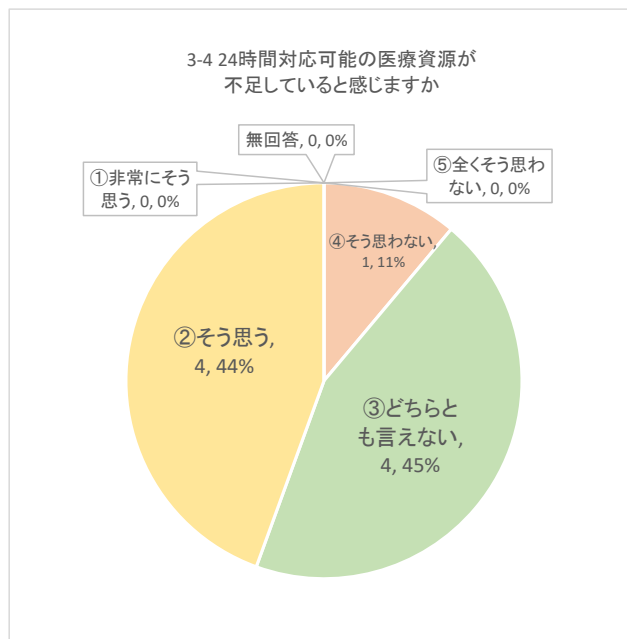
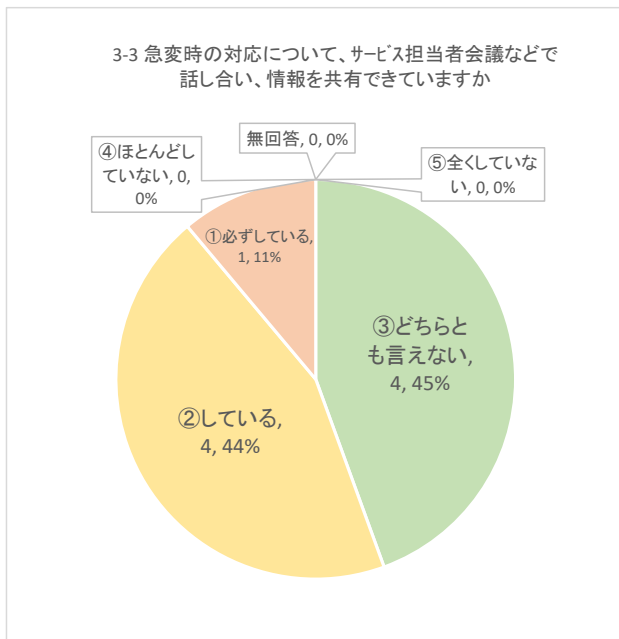
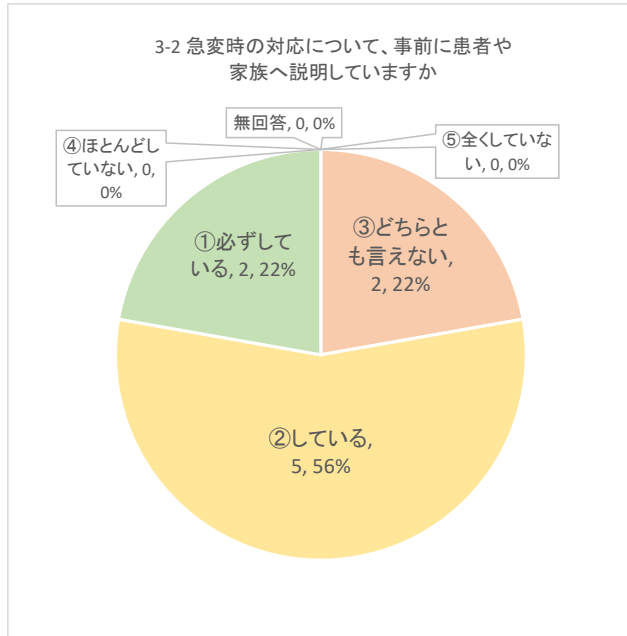
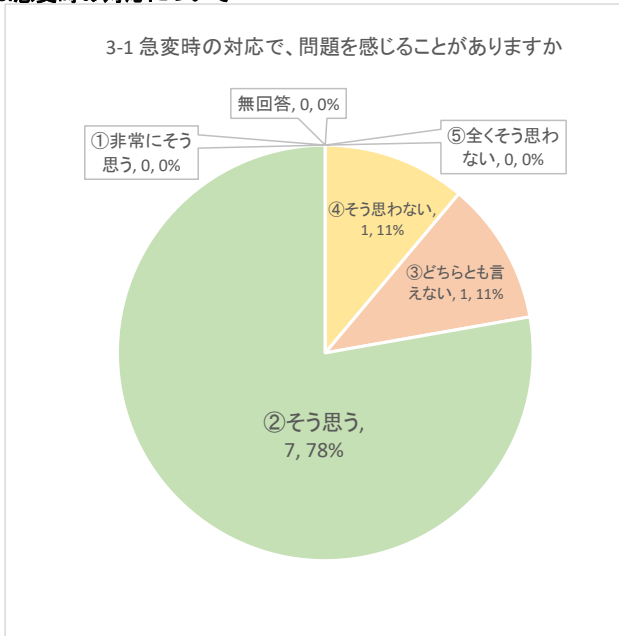
2-10 日常の療養支援についての課題と考えられる解決策について

- ・利用者の普段の日常を把握する為、本人や家族とできるだけ早く信頼関係を構築するとともに、多職種（フォーマル、インフォーマル）と連携する必要性があると考えます。
- ・公のところから情報共有のためにシステム使用は必須と言ったらどうでしょう。
- ・最近「顔の見える連携」がとりづらい。こまめに電話連絡や連絡ノートで伝えられる様にはしている。

4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

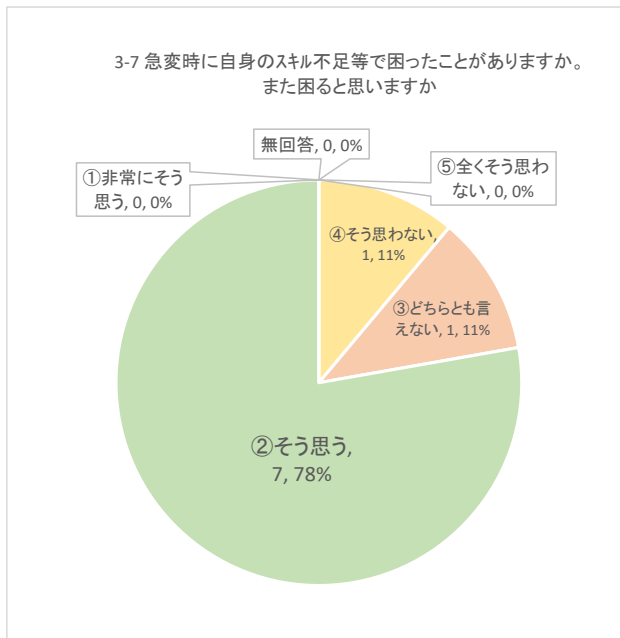
N0.5
アンケート回収率75%
R2年度2月調査

3.急変時の対応について



4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

N0.6
アンケート回収率75%
R2年度2月調査



3-8 急変時の対応についての課題と考えられる解決策について

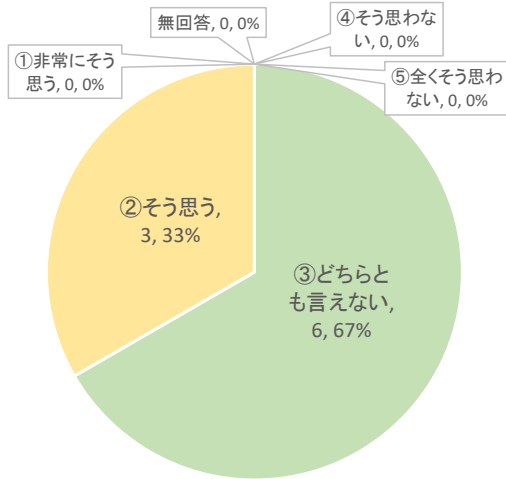
- ・訪問看護師が来るまでに介護スタッフが対応できる能力を指導していく必要がある。
- ・医療間での対応から連携は比較的速やかだったが、ケアマネをはじめ介護職家族等医療に対する知識が低い人達との「急変」という認識を共有すること自体が非常に難しいと感じる。
- ・利用者の急変時に救急車を要請して、利用者と一緒に病院に行った際、家族の到着が遅れ、なかなか病院から離れられませんでした。在宅での状況を電話やSNS等で連絡できるシステムがあれば良いと思います。
- ・クリニックなどのかかりつけ医＋病床をもったかかりつけ医が必ずいるようになる。
- ・夜間や休日の緊急対応時、判断に困る事が多い。事前にいろんなリスクを考え、主治医に対応の仕方を聞いておく対応しやすい。

4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

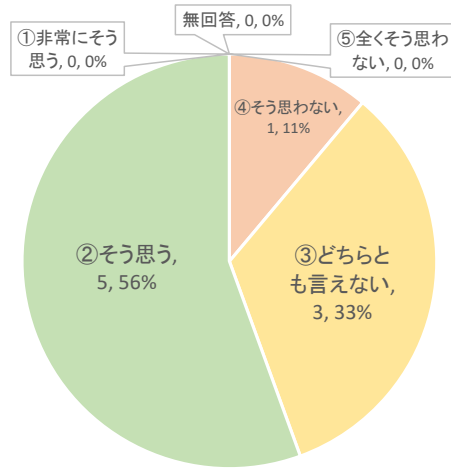
N0.7
アンケート回収率75%
R2年度2月調査

4.在宅での看取りについて

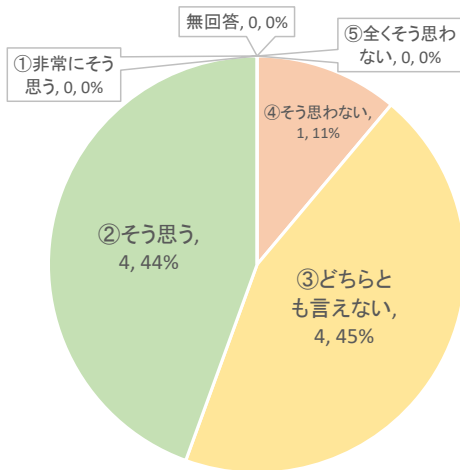
4-1 在宅での看取りについて、問題を感じますか



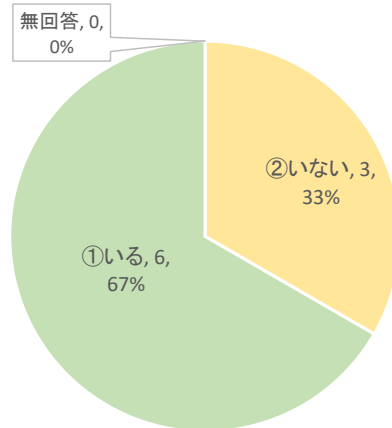
4-2 在宅で看取りをすることは、訪問看護師にとって不安や負担を感じますか



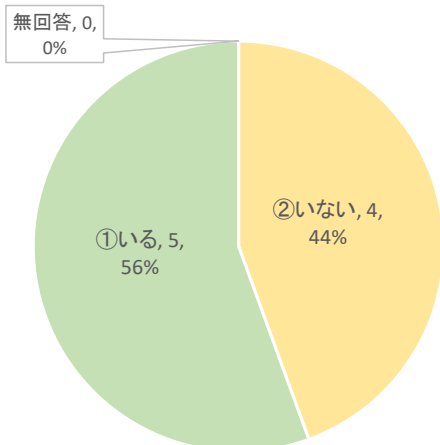
4-3 今後、在宅で看取るケースを増やしていけると思いますか



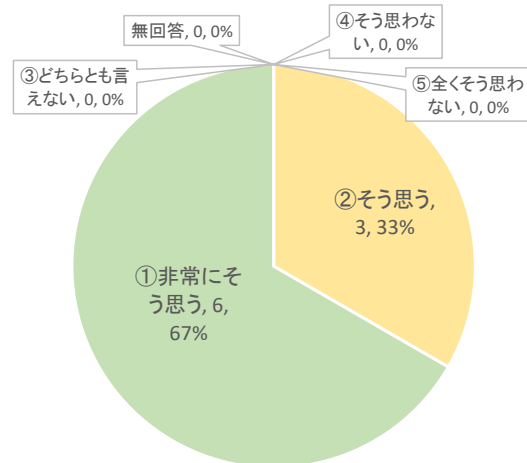
4-4 在宅で看取りをするために、連携する医師が複数いますか



4-5 在宅で看取りをするために、連携するヘルパーが複数いますか

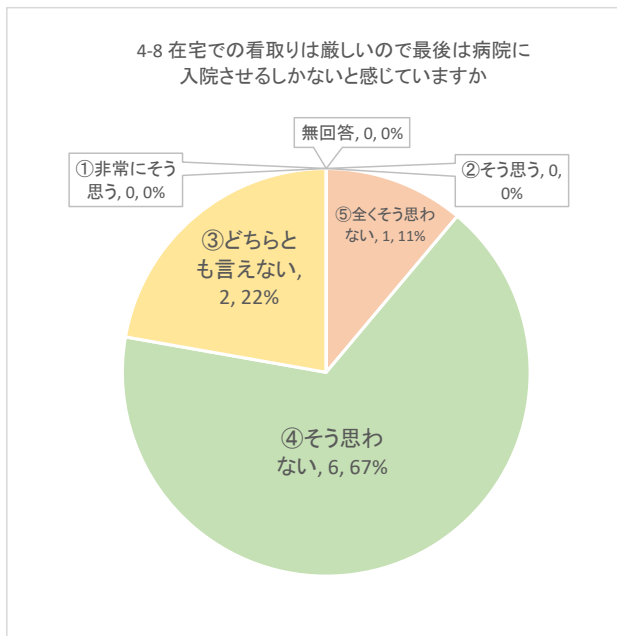
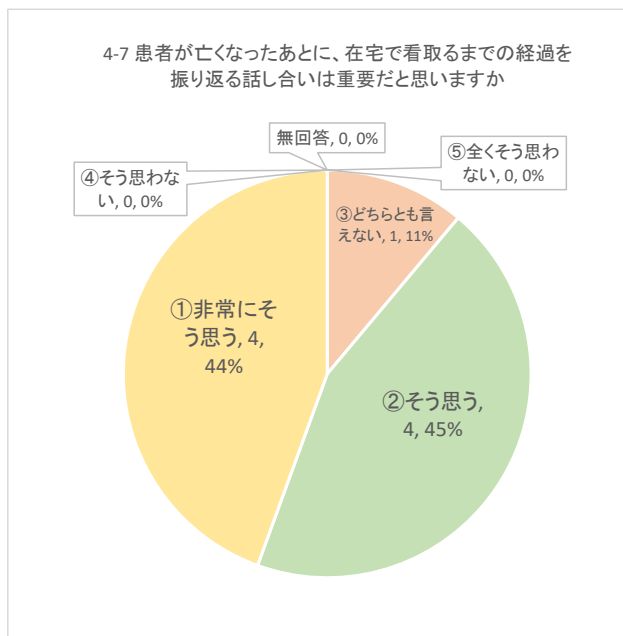


4-6 在宅で看取りをするために、多職種によるカンファレンスは重要だと思いますか



4つの局面アンケート調査結果【訪問看護ステーション】

N0.8
アンケート回収率75%
R2年度2月調査



4-7 在宅での看取りについての課題と考えられる解決策について

- ・介護スタッフのケアが必要。最低限の知識を介護スタッフにも教育していく必要がある。
- ・訪看ステーションの附属病院が往診していないため、在宅医を見つけることから始めないといけない。また附属病院の医師は病院での看取りの方針であるため、当ステーションでの看取りはなかなか増えていかない現状です。
- ・利用者の家庭環境や利用しているサービス、サービス事業者のスタッフのスキル、主治医の方針の柔軟性により、在宅での看取りが可能となる利用者は増えていくと思います。
- ・今年はコロナ禍で在宅での看取りが非常に多かった。夜間の訪問に対応できるスタッフが決まっており、ターミナル利用の受け持ちも対応も同じスタッフで疲労が大きい。面会できない入院よりも、在宅での看取りをして良かったと、家族からは感謝の言葉が多い。毎回同じ担当医師ではないので、報告の仕方などの使い分けをしっかりとしていきたい。
- ・ターミナルの方が重なった場合、当番の時、対応に困る事があった。Drに連絡するタイミングなど。Drを交えて関係者間でデスクファ等出来たらいいと思う。